

市の不登校生徒への 対応、対策は

角田 龍仁議員



適応指導教室設置及びタブレットを活用
教育部長



▲適応指導教室「すまいる」
(市江地区コミュニティセンター)

問 愛西市小中学校の不登校の状況は。

答 小学校では全児童数2,884人に対し34人、中学校では全生徒数1,608人に対し82人。

問 市の不登校生徒への対応・対策は。

答 社会的自立や学校復帰などを目的とした、柔軟な対応をするための適応指導教室「すまいる」を市内2カ所設置。また不登校児童生徒に対し、

タブレットを活用したオンラインでの授業参加などを取り入れている。

問 コミュニティ・スクールの作る考えは。

答 コミュニティ・スクールの導入に関しては、学

校・家庭地域が育てたい子ども像や目指す学校像を共有し、一体となつて子どもたちを育み、課題の解決に取り組むことができることから、今後、検討をしていく。

問 コミュニティ・スクールの導入に当たっての課題は。

答 人材確保、教職員の負担の増大、保護者や地域のコミュニティ・スクールへの認識不足などが考えられる。

愛西市職員の 人材育成(教育)は

問 人材育成(教育)はどのように行っているのか。

答 人材育成方針に6つの目指すべき職員像を掲げて取り組んでいる。

問 県からの権限委譲などで専門的な仕事も多くスペシャリストの人材も求められるが、体制づくりは。

答 県などへの派遣・研修へ積極的に取り組めるよう、人材確保にも努めていきたい。

問 令和4年度の途中退職者及び休職者の人数は。

答 今年度の途中退職者は7人で、休職者数は復職者を含め13人。

問 新しく替わってきた職員に負担はかかっているか。

答 事務引き継ぎの徹底や周りの職員のサポート、協力により、これまでも行われてきた。